

## 1. アンケート調査の目的

毎年3000名を超える歯科医師、技工士、衛生士が来場するデンタルショーだが、歯科医院数は道内全体で増加しているにも関わらず、来場者数は横ばいとなっている。

その為、来場者数が伸び悩んでいる原因を探ることを第一の目的とし、更には今後、デンタルショーでどのような企画を立案すれば集客数を増加できるのか(つまり、来場者はデンタルショーに何を望んでいるのか)を調査することを目的として実施した。

## 2. アンケート調査実施状況

平成21年7月～8月にかけて、「北海道歯科用品商協同組合」の理事企業を中心として、それぞれ歯科医院に対して調査を実施した。

アンケート対象は、歯科医師会に入会している歯科経営者(=院長)、歯科医師会に未入会の歯科経営者、歯科医師会に入会している勤務医、歯科医師会に未入会の勤務医、歯科技工士、歯科衛生士、学生 に大して調査を実施した。

\* 学生は、歯科大学学生・技工士専門学校生、衛生士専門学校生をそれぞれ設定したが、回収数が極端に少なかったため、「学生」で一つにまとめた

アンケート回収枚数は、総数が1198枚、有効回答数は1181枚だった。

\* 記入の無いもの及び問9の職種にチェックの入っていないアンケートは無効とした。

\* 職種に複数のチェックがついている場合、医師のチェックを優先した(医師の回答とした)

アンケートの項目数は9項目(内容は、別紙「アンケート項目」参照)

アンケート集計表は、基本的に職種ごとに分類した上で一覧表にしている。(各職種において、回答数の多かった上位項目に黄色で網掛けを実施している)

\* 質問の内容によって、職種ごとの傾向値が重要とされないと思われる項目(問3, 4, 6, 8)に関しては、全体集計のみとした

### 3. アンケート内容の分析結果(サマリー)

今回の調査では、各ディーラーの取引先に対するアンケートが中心であったためか、特に歯科医師でデンタルショーについて知らない人は殆んどいなかった。

逆説的になるが、普段から付き合いの深い(=アンケート調査にも協力してくれる)医院は、当然、営業担当者がデンタルショーの案内をしているため、知っているし、行ったこともあるという状況といえる。

後述しているが、来場者はDrが中心であり、技工士や衛生士はそのDrに連れてこられる傾向が強いため、まず医師合計の中の「行ったことがある」46.9%(307名)に再来場してもらうことが重要となる。

また、今後更に活性化していくためには、アンケートに協力頂けなかったような医院に対して、どのようなアプローチをしていくかも重要なポイントとなる。(そのためにも、各職種において、何を望んでいるのかを把握し、今後のデンタルショーの運営に活かしていくことが重要となる)

来場の目的としては、全ての職種において「展示内容」が最も多く、新製品や材料、新技術などに対する関心の高さが覗える結果となったことから、やはり各ブースの充実が一番重要となってくる。

\* 展示内容に次いで多かった「講演内容」についての理由も同様と考えられる。

問5で企画内容についての要望を聞いているが、医師の回答が最も多かった項目は「歯科著名人による講演」だった。このことから、学術大会が同時開催されているにもかかわらず、「魅力のある講演であれば是非聞きたい」といった要望が大きいことが推察される。

また、全体としてはイベントや景品の充実を挙げる声が多く、3割近く(29.4%)になったが、特にイベントとして具体的な希望の出ている企画としては「技術・機械のデモ」であり、単なる展示ではなく、実演を見て確認したいとの要望が強く感じられた。勿論、各ブースでも実演はしているはずだが、更なる充実(又は演出)を求められていることが読み取れる。

\* 衛生面での問題があるが、被験者に対する実際の処置など(又はモニター上映)などを要望しているのか？

「スタッフの教育・研修」という要望が、特に医師と歯科衛生士で多かった。(289件、16%)

これは、今後の新企画としての検討材料の一つになり得る

更に、医師が多かった回答が、「経営相談」(150件)で、近年の不況と歯科医院の増加、人口の減少及び高齢化によって苦しんでいる医師が多いことが影響していると思われる。(コメントとして記入されていた意見としては、開業相談などの要望もあった)

会場については、公共交通機関のアクセスが良いところと、車での利便性(駐車場や付近の道路事情など)が良い所との要望が圧倒的であり、現在のようなホテルを求めている人はごく少数意見となっていた。

開催時期に関しては、「学術大会との関連」が大きなテーマとなっている。

学術大会と同日程を希望しているのはアンケート回答数全体の15%、このうち医師だけの回答でみると202件(22.1%)という結果であり、“来場の主導権を握っている医師の約2割が同日程を希望している”という結果となった。

つまり、問2の来場目的で「学術大会」と回答した216名(うち医師数187名)は、学術大会と違う日程で開催した場合に、来ない可能性のある人々と推察される。

\* 但し、問2は複数回答であること、更に医師以外の職種(特に衛生士)は医師と一緒に車で来場している可能性が高いことを加味すると若干の増減があり、最終的にこの数値は若干増加するものと予測される

また、平均の来場者数を3000名として計算すると、約450名～600名の範囲での減少が予想できる。

\* 勿論、学術大会だけを考慮した場合の数値であり、実際には他の魅力(展示内容・講演内容)によっても大きく変動する

学術大会のある8月を除くと、その前後(6月～7月、9月～11月)を希望する声が多いが、他方で「いつでも良い」といった意見も多く、結果としてはかなりバラツキのある内容となった。

これは言い換えれば、「開催の月によって行く・行かないが左右される可能性は低い」ということになる。

もらってうれしい景品については、全体としても(特に医師の声としては更に)診療材料という声が最も多くかった。

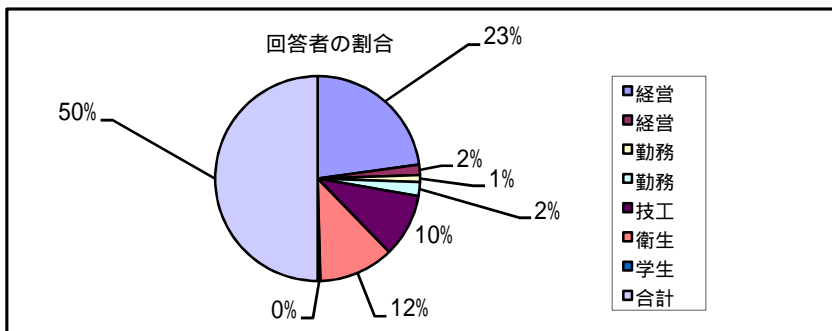
ただし、実際に(診療の現場で)使えるものを希望している傾向が見受けられるため、今まで全く扱ったことの無いものに関しては、活用に抵抗があるように感じられる。したがって、新製品よりは一般普及品が好まれるのではないかと推察される。

### **次項より、各項目の集計結果についての分析及び考察を進める**

## 9. 回答者の種類

\* はそれぞれ歯科医師会所属、 は未入会

経営	経営	勤務	勤務	技工	衛生	学生	合計
539	38	27	51	236	280	10	1181



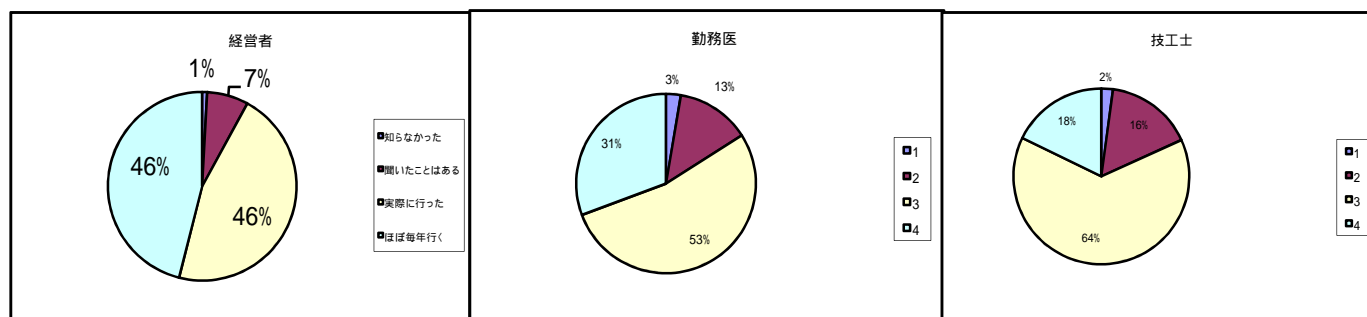
圧倒的に医師会所属の医師が多いが、未入会のDrも(勤務医含め)89名(医師総数の13.6%)ほどが回答している。医院経営者では、6.6%が未入会であり、今回の調査では入会率が高い結果となった。

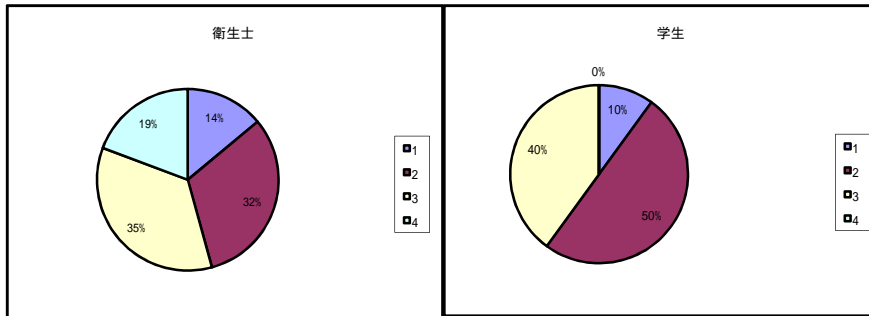
勤務医の場合では、医師会への入会率が低く、勤務医全体の34.6%にとどまった。

遠距離になればなるほど、歯科衛生士の来場率は低くなる傾向にある。(札幌市内:29.5%、100km以上の遠隔地:22.0%)  
歯科技工士においては上記のような傾向は見られず、一人でも(又は独自に)来場していることが伺える。

## 1. 北海道デンタルショーを知っているか

	経営	経営	勤務	勤務	技工	衛生	学生	合計
知らなかった	5	0	0	2	5	39	1	52
聞いたことはある	37	4	3	7	38	89	5	183
実際に行った	243	24	16	24	151	98	4	560
ほぼ毎年行く	257	10	8	15	42	54	0	386
合計	542	38	27	48	236	280	10	1181
	580		75		236	280	10	1181





医院経営者である医師は、ほとんどが来場経験があり、「実際に行ったことがある」「ほぼ毎年行く」を合わせると、経営者全体の92%になる。(勤務医を含めても、91%が来場経験有りだった)

また、ほぼ毎年来場しているヘビーユーザーは、医師では655人中290人で、44.3%になる。一方、技工士及び衛生士では極端に低くなり、それぞれ技工士17.8%、衛生士19.3%となっている。

ほぼ毎年来場している人の総数は、今回のアンケート総数1181人に対して386人(32.7%)と低く、この割合を基本として考えると3000名の来場者のうち、毎年来るのは約1000名(981名)で、残りの約2000名は数年に1回又は新規での来場者となる。

衛生士の場合には、実際に来たことがあるのは衛生士全体の54.3%で、他の職種と比較すると低い率となっている。(特に、遠隔地になるとその傾向が強い)

## 2. 北海道デンタルショーに行く目的

	経営	経営	勤務	勤務	技工	衛生	学生	合計
展示内容	335	21	9	27	141	93	2	628
講演内容	155	9	6	14	26	27	2	239
他院動向	13	2	1	0	2	0	1	19
業者に誘われた	109	16	4	10	55	33	1	228
先生・スタッフ	46	9	6	6	17	60	2	146
学術大会	163	6	7	11	18	11	0	216
同窓会	91	3	0	1	7	0	0	102
暇つぶし	36	1	1	3	21	6	0	68
業界情報	104	7	5	11	64	24	0	215
その他	5	0	1	1	5	1	0	13
合計	1057	74	40	84	356	255	8	1874

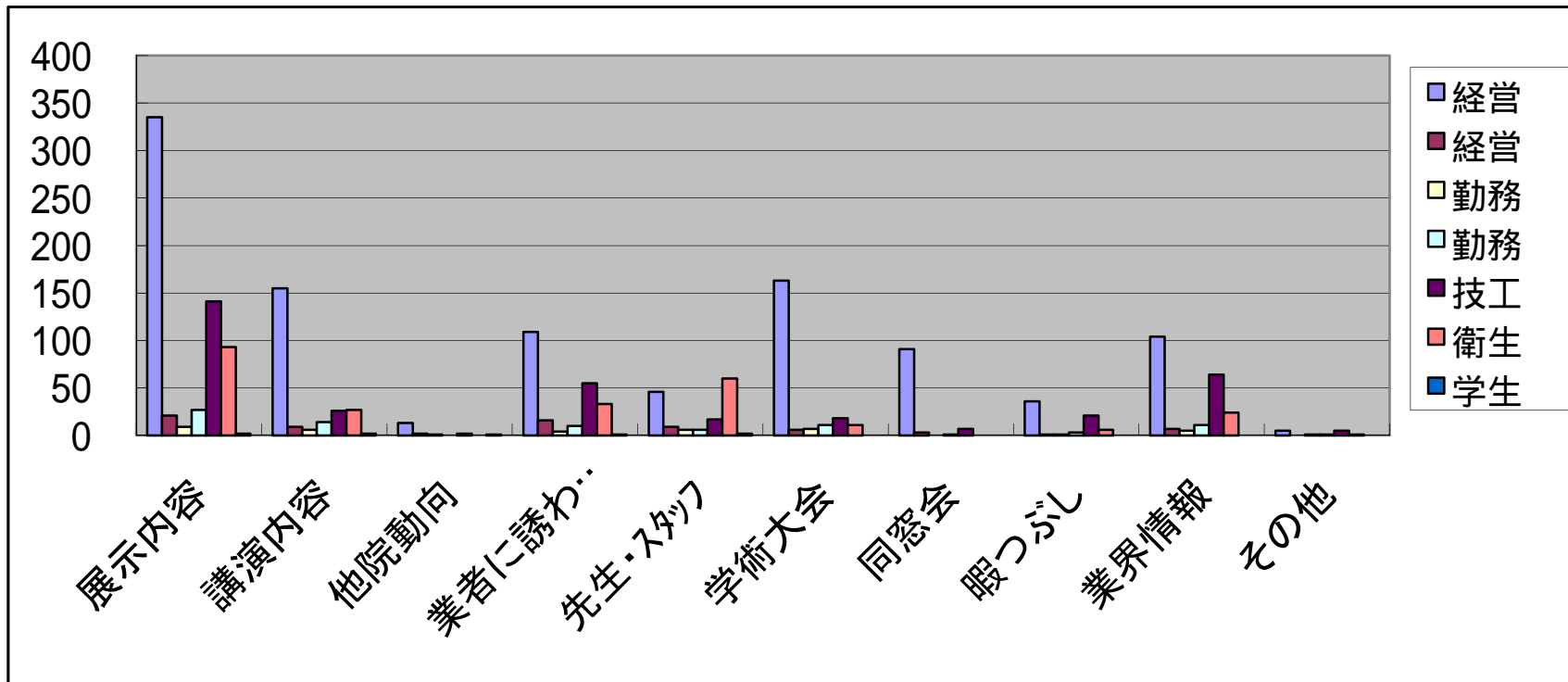
経営者・勤務医を問わず、医師の場合には「展示内容」や「講演内容」を楽しみに来場される傾向が強い(「展示内容」392件:31.2%、「講演内容」184件:22.6%)

また、全ての職種で「展示内容」がデンタルショーに行く目的のトップとなっている。

医師会入会医師に特徴的なのは、「学術大会」を目的に挙げている人が多いことであり、医師会入会経営者の15.4%となっている。

また、学術大会と同時に同窓会などを開催しているケースが多いためか、同窓会を目的に上げている医師も95名(7.6%)いる。

業者(メーカー、ディーラー)に誘われて来場している人が、228名(12.2%)にのぼった。



### 3. 誰と来場したか

【全体】

一人で	スタッフ	他院	家族	その他	合計
477	318	125	81	29	1030

【遠隔地(帯広、釧路、旭川、室蘭、函館)】

一人で	スタッフ	他院	家族	その他	合計
182	94	41	32	10	359

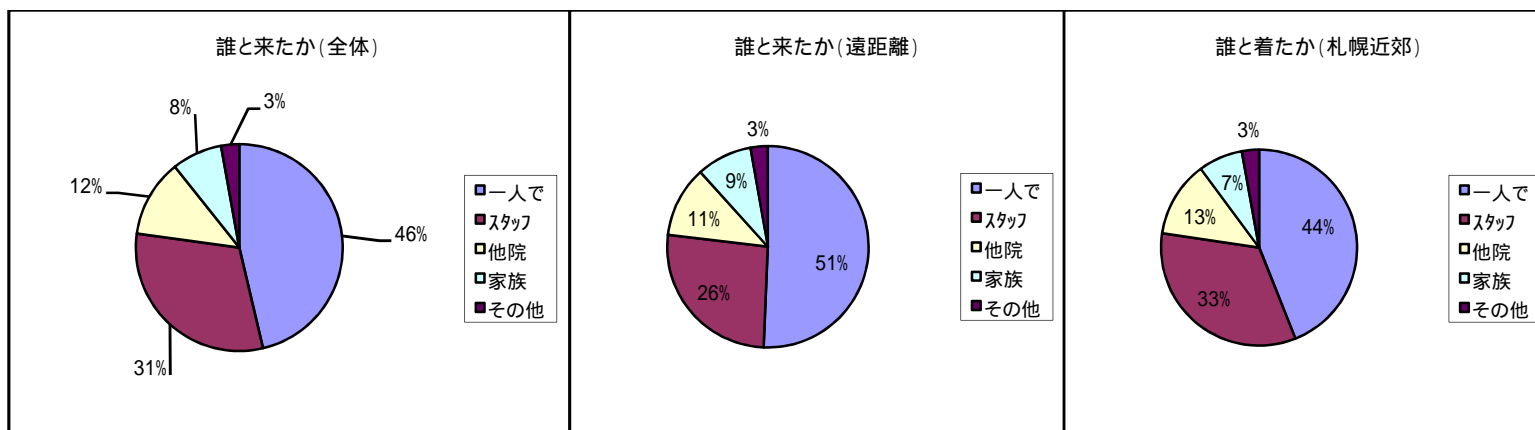
【札幌及び近郊】

一人で	スタッフ	他院	家族	その他	合計
295	224	84	49	19	671

「一人で来場」が477件(46.3%)で最も多いが、次いで「自院スタッフと一緒に」との回答が318件(30.9%)と多かった。

地域別に見てみると、札幌100km圏内の地域においてはスタッフを同行するケースが多く(224件、21.7%)、それ以上の遠隔地になると、94件(9.1%)と極端に少なくなる。

「その他」で多かったのは、技工士同士で誘い合って来場するケースだった。



#### 4. 交通手段は何を利用したか

【全体】

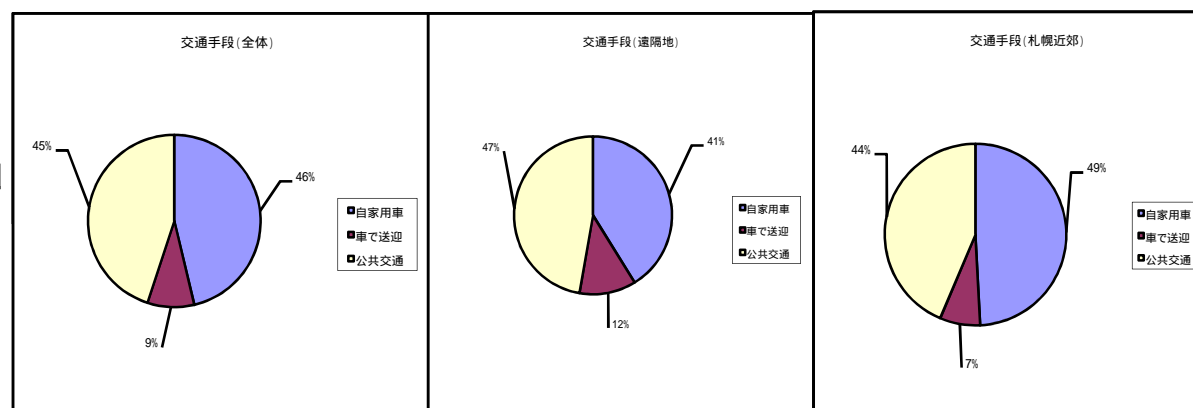
自家用車	車で送迎	公共交通	合計
458	87	445	990

【遠隔地(帯広、釧路、旭川、室蘭、函館)】

自家用車	車で送迎	公共交通	合計
149	42	171	362

【札幌及び近郊】

自家用車	車で送迎	公共交通	合計
309	45	274	628



高速道路のETC割引が影響したためか、全体的に自家用車で来場が458件(46.3%)と多かった。

今回の調査では、開催地である札幌及び札幌近郊と、地方との差があまり無く、「自家用車利用」と「公共交通機関」で全体の9割を占めており、全体で見ると若干「自家用車利用」が多い程度。(遠隔地は若干自家用車よりも公共交通機関の利用が多かった)

職種でみると、遠隔地になると衛生士数が減る傾向にある。(技工士も減少するが、「一人で来場する」ケースも見受けられる)

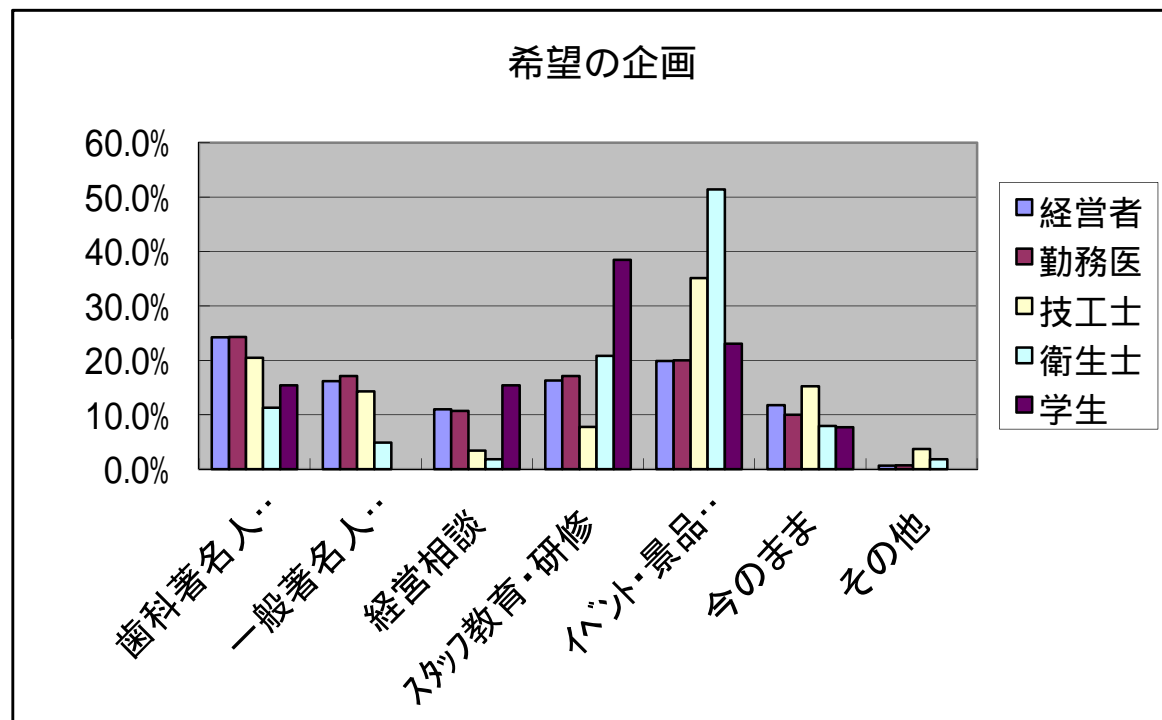
## 5. どのような企画・内容があれば行きたいか

	経営	経営	勤務	勤務	技工	衛生	学生	合計
歯科著名人講演	214	15	7	27	66	44	2	375
一般著名人講演	142	11	9	15	46	19	0	242
経営相談	90	14	6	9	11	7	2	139
スタッフ教育・研修	150	4	5	19	25	81	5	289
イベント・景品充実	174	14	4	24	113	200	3	532
今のまま	107	4	9	5	49	31	1	206
その他	5	1	1	0	12	7	0	26
合計	882	63	41	99	322	389	13	1809
	945		140		322	389	13	1809

合計で見ると、「イベント・景品の充実」といった即物的な要望が多く見受けられるが、これは技工士・衛生士の要望がそれぞれ1番になっていることが大きな要因であり、医師で見ると「歯科著名人の講演」など、歯科業界や技術・情報を優先していることが読み取れる。

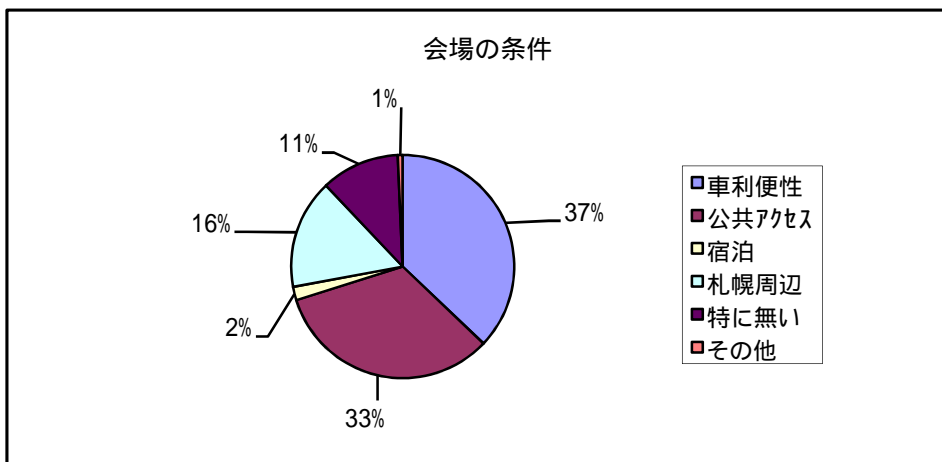
また、「スタッフ教育・研修」を希望している医師や衛生士が多いといった特徴もあり、今後の運営において、「医師が展示や講演に参加している間に、衛生士などの研修を同時開催する」といったことが望まれていると推察される。

「経営相談」を望んでいる人も少なからずいることが判明した。特に勤務医や学生の場合には、今後(将来)の独立開業に向けた活動としての意見ではないかと思われる。(実際にコメント欄に同様の意見がコメントとしてあった)



## 6. 開催会場の条件

車利便性	公共アクセス	宿泊	札幌周辺	特に無い	その他	合計
517	460	27	221	158	10	1393



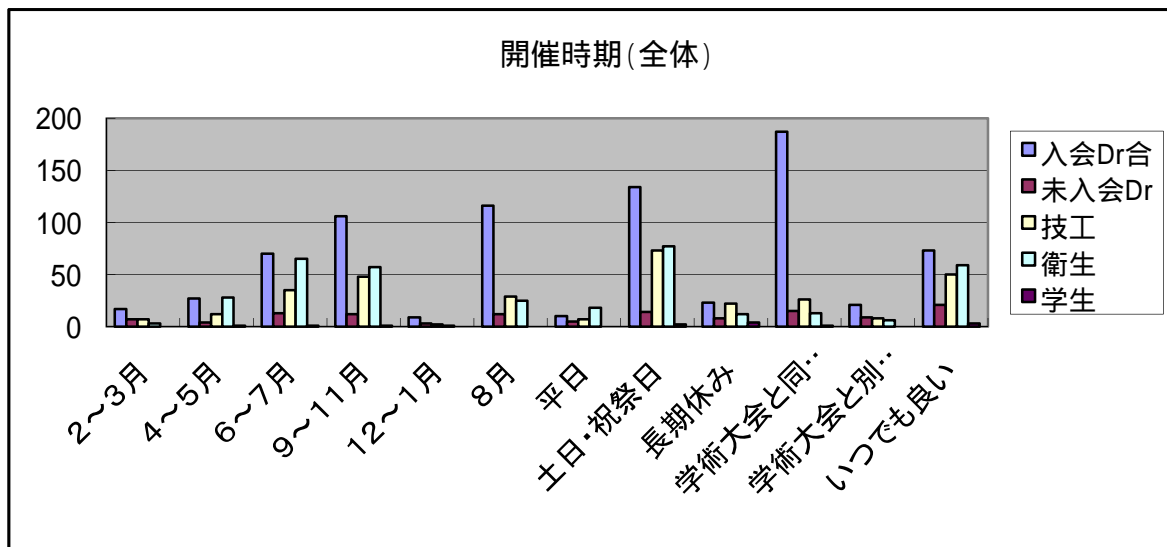
交通手段と連動する傾向にあり、「車の利便性(37.1%)」と「公共交通機関へのアクセスが良い会場(33.0%)」との希望が多かった。(現在の会場は車で利便性が良くないために、特に札幌市内では車を使わずに公共交通機関などを利用している人が少なからずいることが推察される)

宿泊に関する希望が少ないことから、ホテルではなく、コンベンションセンターなどでの開催など、場所の選択肢を広げても問題ないことが分る。(その方が、「車の利便性」も良くなる可能性が高くなると思われる)

また、地方(地元)での開催を望む声も数件あった。

## 7. 開催時期

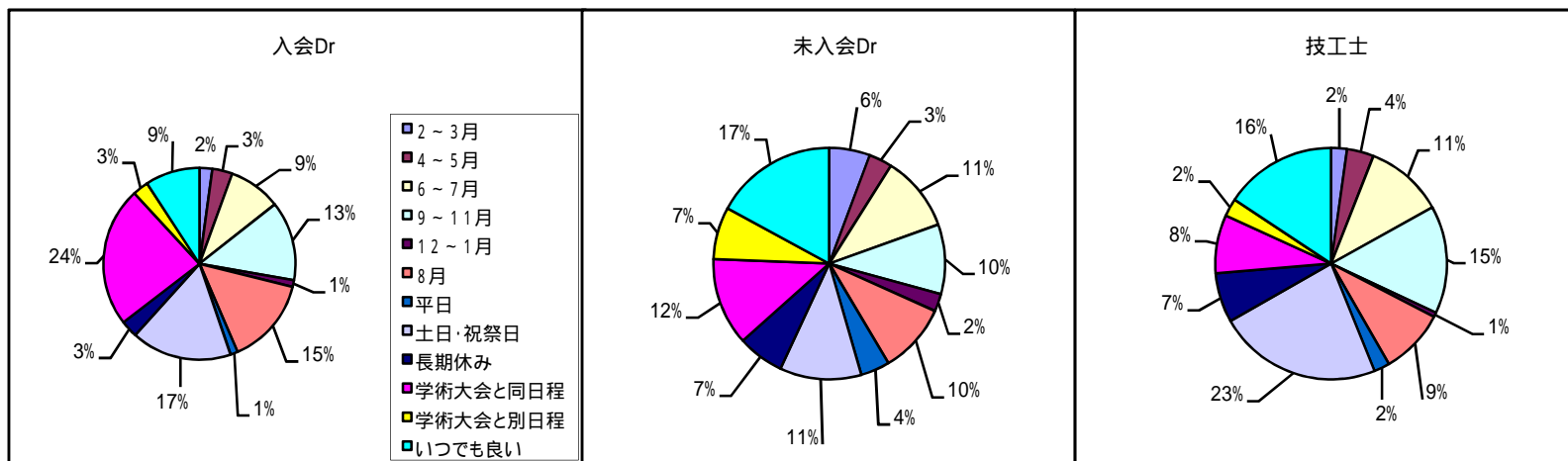
	経営	経営	勤務	勤務	技工	衛生	学生	合計
2～3月	15	3	2	4	7	3	0	34
4～5月	26	1	1	3	12	28	1	72
6～7月	65	3	5	10	35	65	1	184
9～11月	102	7	4	5	48	57	1	224
12～1月	9	1	0	2	2	1	0	15
8月	112	8	4	4	29	25	0	182
平日	9	0	1	5	7	18	0	40
土日・祝祭日	128	6	6	8	73	77	2	300
長期休み	22	2	1	6	22	12	4	69
学術大会と同日程	184	5	3	10	26	13	1	242
学術大会と別日程	21	5	0	4	8	6	0	44
いつでも良い	67	9	6	12	50	59	3	206
合計	760	50	33	73	319	364	13	1612

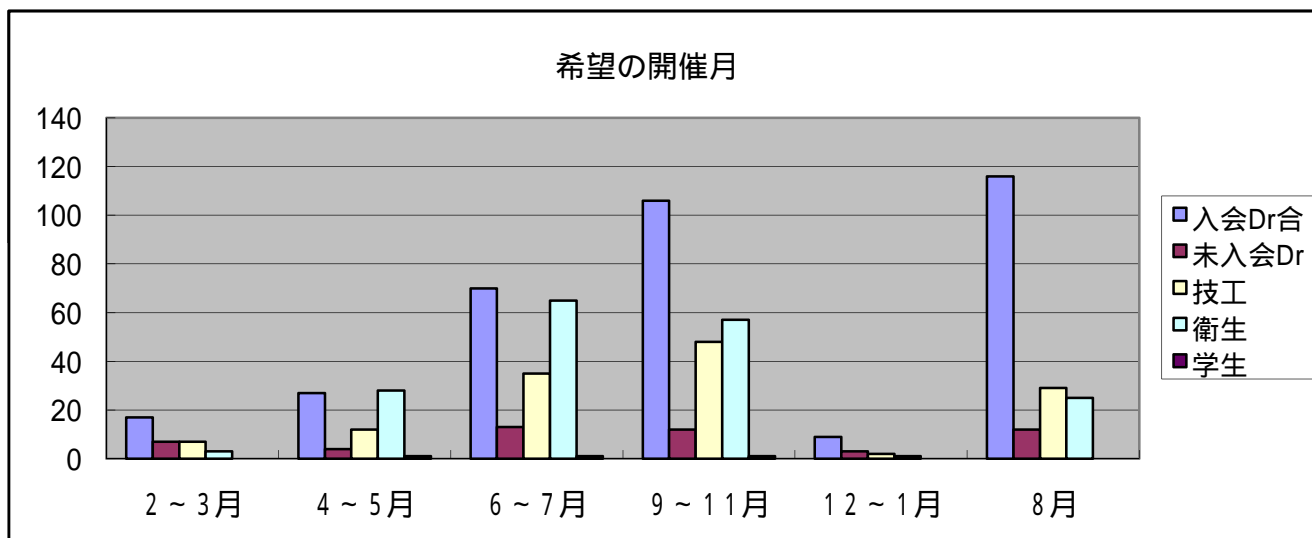
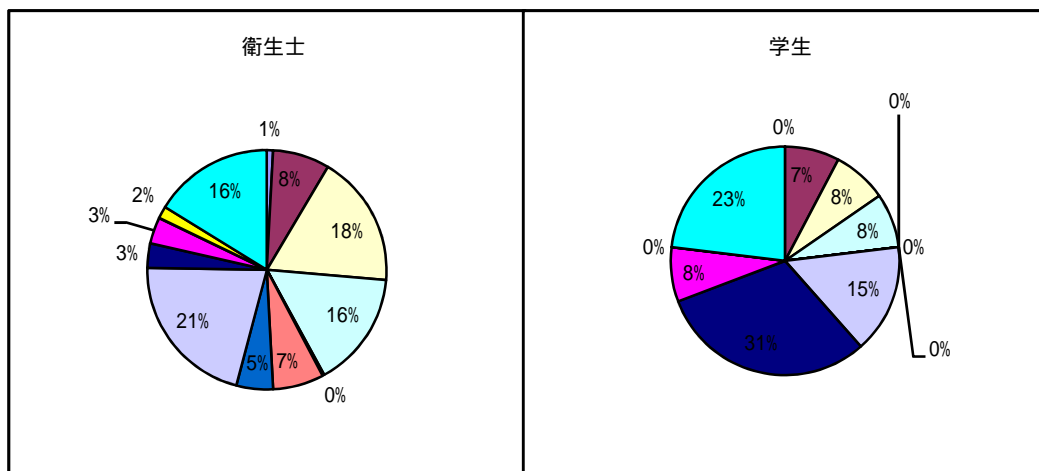


学術大会と同日程を希望している人は242名で、全体の15%、これに8月開催の希望者182名を足すと424件で全体の26.3%となる。

しかしながら、複数回答であるため正確な人数ではなく、むしろ問2の「デンタルショーに行く目的」で学術大会と答えた15%の方々が、開催日も同日程を希望しているとの考察が妥当。今まで毎年8月開催であり、慣れているため8月を希望している人も多いのではないかと推察される。

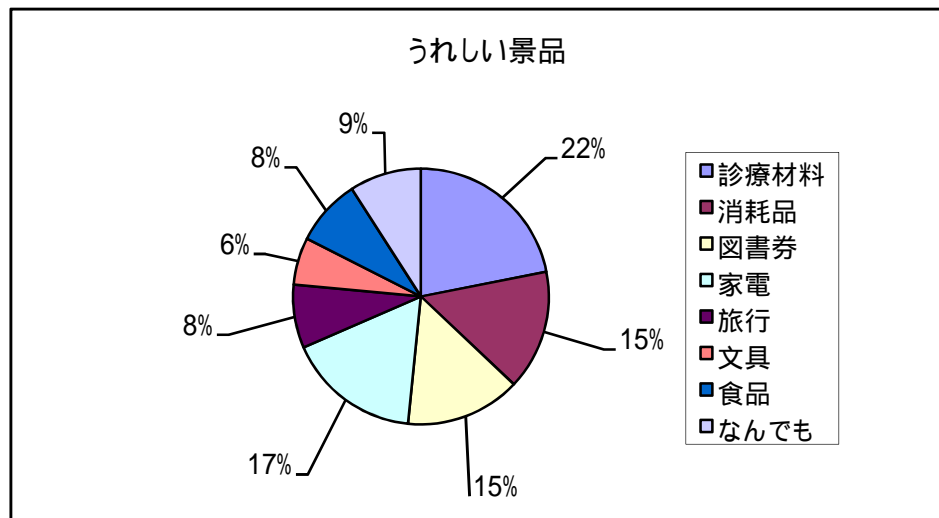
医師は8月を希望している件数が(上記の理由により)最も多いが、それ以外の職種を含めると、9月～11月を希望している件数が一番多く、次いで6月～7月となっている。  
 ただし、「いつでも良い」にチェックしている人も206件あり、全体的な傾向は見出せなかった。  
 逆に考えると、「都合の良い月があるわけではなく、単に都合の良い日を設定できれば問題無い」と推察される。





## 8. もらって嬉しい景品

診療材料	消耗品	図書券	家電	旅行	文具	食品	なんでも	合計
516	357	344	397	189	141	199	214	2357



うれしい景品としては、診療材料が516件(21.9%)でトップであり、患者さん用の消耗品(歯ブラシなど)も357件(15.1%)と、多く、自分のためのものというよりは、医院で活用できるものや、自院の経営に貢献できるものの要望が多かった。

ただし、できれば普段使っている材料やプレゼント(又は販売?)できる消耗品を希望しているのではないかと考えられる。(コメントとして「どの材料店でも使える金券」といった意見も数名から出ていた)

比較的、医師の答えは診療に関する物の要望が多く、衛生士や技工士などからの要望は自分の趣味的な物の希望が多い傾向にあった。

家電なども、医院で活用できるような内容が喜ばれるのではないかとと思われるが、デザインなど嗜好もあるため、十分な検討が必要と思われる。

図書券といった要望も、以外に多くあった。